

航空機操縦士養成連絡協議会 航空機整備士・製造技術者養成連絡協議会

裾野拡大ワーキンググループ

平成28年度とりまとめ

1. 平成28年度におけるワーキンググループ開催実績
第6回 平成29年 3月 1日(水)
(議事) (1) 平成28年度とりまとめ(案)について
(2) 平成29年度における裾野拡大の取組みについて
(3) その他
2. ワーキンググループ構成員
別紙のとおり
3. 平成28年度における取組み
ヘリコプター部会の下に設置されている裾野拡大WGについて、今年度より両協議会と連携して裾野拡大に取り組むこととなった。
 3. 1 個別の取組みのネットワーク化等による航空業界全体の取組みの推進
 - (1) 航空に係る共通ウェブサイト `skyworks` について
`skyworks` について、平成28年4月よりイベントカレンダーの運用を開始した。多種多様な情報を発信しているところではあるが、掲載されているイベント等の数はまだ少なく内容の充実を図るため情報提供が求められる。コンテンツ内容については、更なる充実のためヘリコプターに関する職種紹介を今後追加していく予定である。また、`skyworks` 自体の認知度についても向上を図る必要があるが、`skyworks` の管理者及び運営者のみでは限りがあるため、両協議会員においても、引き続き本ウェブサイトの認知度向上への助力が求められる。
 - トータル閲覧数 34, 776件(2月末現在)
 - 最近1ヶ月(2月)の閲覧数 1, 816件

3. 2 空に親しむ体験を充実させる取組について

(1)「空の日」との連携

平成26年度とりまとめにおいて、提案されていた「空の日ネットとskyworksの相互リンク」について、空の日実行委員会とskyworks管理者であるJAPAにおいて、平成28年6月にそれぞれのホームページにリンクが掲載された。

(2)空のお祭りやスカイスポーツ等の振興

公益財団法人日本学生航空連盟による「埼玉スカイスポーツフェスタ」(主催:スカイスポーツフェスタ実行委員会)について、今年度においても平成28年10月23日に「埼玉スカイスポーツフェスタ2016」が開催され、当日は、天候にも恵まれ、約12,000人の参加者があり、デモフライトや熱気球の体験搭乗等が実施された。お子様連れの家族の姿が多く、子どもたちには様々な体験を通じ、空に興味を持ってもらうことができたとの報告を受けた。

このような取組みは空に興味を持ってもらう貴重な体験の場でもあり歓迎するものである。さらなる裾野拡大を目指し、航空業界全体として様々な取組みを促進する。

3. 3 女性操縦士・女性整備士・女性製造技術者の増加に向けた取組み

(1)現役の女性操縦士・女性整備士・女性製造技術者による講演会の開催

昨年度において、両協議会が連携し、一般社団法人日本女性航空協会協力の下、開催された「航空教室(女性限定)特別版 Yes I Can!」について、今年度は3月20日(月:祝日)にヘリコプター部会とも連携し女性操縦士・女性整備士・女性製造技術者による仕事の紹介、講演、グループディスカッションが行われ約50人の参加があった。

3. 4 初等中等教育における航空への関心を高める取組

(1)高校の進路指導担当者等への情報提供

愛知県内や三重県松阪地区の高校の進路指導担当教諭を対象に、航空関連職種やその養成機関に関する情報を共有するため、愛知県、愛知労働局、松阪地域雇用対策協議会や中部経済産業局がそれぞれ連携し、航空機産業事業所の見学会を昨年度に引き続き開催した。

(2)「キャリア教育」の取組みとの連携

小・中・高等学校におけるキャリア教育を支援するため、厚生労働省の職業意識形成支援事業である「キャリア探索プログラム」を活用し、愛知県、愛知労働局及び中部経済産業局の連携のもと、航空機産業分野の社会人講師を登録・派遣し、昨年度に引き続き県内中学校で講話を実施した。

3. 5 その他

(1) 2016年国際航空宇宙展での活動

S J A Cでは、平成28年10月12日から15日までの4日間、4年ぶりとなる国際航空宇宙展を東京ビッグサイトにおいて開催。15日の土曜日は、航空宇宙への国民の理解及び若年層の関心喚起を図り裾野拡大に資するべく、各社・機関の支援も得て多彩なパブリックイベントを行った。

S J A C企画による館内ガイドツアーをはじめ、航空自衛隊によるヘリコプター実機展示、音楽隊コンサート、航空学生ドリル展示、ANAによるエアライン講座(整備編)のほか、女性パイロット&整備士によるJAL航空教室や日本ロケット協会「宙女(Sorajo)」によるイベント、山崎直子宇宙飛行士講演会、各大学の文系・理系学生有志が主催する「宇宙開発フォーラム」など女性や学生によるイベントも多数行い、パブリックデーの土曜日には約11,000人(内、学生以下約3,000人)の来場を得た。なお、今回初めて大学生以下の入場料を無料化した。

(2) 航空機産業人材確保に関する取組み

中部経済産業局において、航空機産業に関心のある若手人材を発掘し、仕事の理解促進を図り、中部地域を中心とする航空宇宙関連部品企業とマッチングの機会を創出した。一例として「航空機産業しごとフェア」を関東(横浜)、関西(京都)において県U I Jターセンセンターとも連携して開催し、航空宇宙をテーマにした講演や出展ブースでの企業担当者等による会社・製品説明を行った。また、インターンシップ受け入れ実施企業の案内冊子を製作し、大学・高専等に配布するとともにウェブサイトにて情報発信した(今後、s k y w o r k sにリンク予定)。

また、(独)国立高等専門学校機構と連携し、鳥羽商船高等専門学校の学生を対象に航空宇宙関連部品企業等を講師として、航空宇宙先端技術分野に係る特別講義を5回に亘り実施した。同機構のTV会議システムを活用して関心のある全国8高専へライブ配信するとともに、全国の高専が活用できるようライブラリー化も図った。

更には、名古屋大学にて航空学科の学生や他大学を含む工学系学生を対象に航空機装備品学生セミナーを開催した。

(3) 子ども霞が関見学デーへの協力

平成28年7月27日及び28日の二日間に渡り開催された国土交通省における「子ども霞が関見学デー」において、J A P AやJ A E A、全航連をはじめ航空会社が協力し、現役操縦士・整備士・客室乗務員による仕事紹介やフライトシミュレーター体験など、裾野拡大につながる取組みを行った。

(4) 各航空会社における取組み

各航空会社において全国各地における航空教室の実施や工場見学、空の日への参加等様々なイベントを通じ裾野拡大に係る活動を実施した。

4. 平成29年度における取組み

平成29年度においては、今年度実施した取組みに関し、子ども霞ヶ関見学デー、航空教室（女性限定）は計画・実行することとしている。また、航空機産業人材確保に関する取組みでは、（独）国立高等専門学校機構と連携する航空宇宙先端技術分野に係る特別講義について、テーマを拡大して継続するほか、大学等教育機関・企業と連携し特別講義の機会を広げるとともに、インターンシップ促進のため受け入れ実施企業リストを拡充する。その他の取組みについても可能な限り継続して実施されることが望ましい。平成29年度の新たな取組みとして、機内誌等各社の有する媒体を通じた裾野拡大の取組について、フィージビリティを含めて検討を実施する。また、両協議会事務局からその他裾野拡大に関する取組みについて協力依頼があった場合は、関係者の積極的な協力が期待される。一方で、協議会員各位においても、裾野拡大に関する取組みを検討する上で、個社での実施が難しい場合は他の会員に協力を要請したり、協議会事務局へ相談したりするなど、相互に協力して取組むことも想定される。

5. 平成29年度以降の進め方

(1) 裾野拡大ワーキンググループについて

裾野拡大ワーキンググループは、平成29年度以降も存続する。ただし、ワーキンググループは、前述「4. 平成29年度における取組み」に関するフォローアップを含め、事務局が開催する必要があると判断した場合に開催するものとする。

なお、これまでのワーキンググループは両協議会合同で開催してきたが、今後は、各協議会の取組みの内容により、協議会ごとに開催する場合も想定される。

<<添付資料>>

- ・裾野拡大ワーキンググループ平成28年度とりまとめ参考資料
- ・裾野拡大ワーキンググループ構成員名簿